

受検
番号

課題 1 次の文章を読んで、あとの(1)から(4)に答えましょう。

見えない人がスポーツをする際にも、イメージが大きな力を持つ場合があります。葭原さんが二十二歳で見えにくくなって最初にやったスポーツは、陸上の走り高跳びでした。一瞬に状況に応じるサーフィンのようなスポーツと違って、走り高跳びの場合は、自分がどのように跳ぶか、そのイメージを事前に完全に作っておき、その通りに跳びます。地元の試合だろうが、パラリンピックだろうが、いっだって同じ「頭の中のバー」を跳ぶのです。いわゆる「イメージトレーニング」のようなもの、環境だけでなく自分の動きを含めたイメージの中に没入するのです。

具体的には、とくに助走のイメージが重要です。見える人の場合、ジャンプの成否を決める要因の中で助走が占める割合は六割と言われます。ところが見えない人になると、これが八割九割になる。しかも歩数が短く二、三步程度しかありません。葭原さんは少し見えていたのもっと長い距離を助走していましたが、全盲だと長くて五歩程度だとい

ます。この数歩をどのようにこなしたらいいか。ベストなフォームをひたすら筋肉に覚え込ませるのです。助走の動きをシミュレーションしてそのとおり動けるようにすることが、見えない人にとっての走り高跳びの練習です。「バーを跳ぶ」という目標に向かうのではなく、その過程での体の動きを作る。それはどこかダンスにも似ています。完璧なダンスが踊れると、その結果としてバーがクリアできるわけです。

もちろん、スポーツは勝負事ですから、パスするかどうかの駆け引きなど現場で対応しなければならぬ要素もあります。しかし、「跳ぶ」という肝心の行為に関しては、頭の中にあらかじめ作ったイメージに徹底的に集中することが重要です。恐怖心は、対応できない偶発事が起こるかもしれないというネガティブな予期から生まれます。偶発事を排除した揺るがないイメージに没入することができれば、恐怖心は生まれません。

こうしたイメージへの没入は、見えない人の方がかえって得意とすることもありません。視覚がないぶん、不必要な情報に振り回されることがないからです。広瀬さんは、こうした集中力の高さは、武道においても役立つといえます。たとえば居合道では、頭の中にイメージした敵に向かって、刀を振り下ろします。イメージされたものに体を合わせていく力は、見えない人の方が強いのもかもしれません。

障害と無関係な人はいません。誰しも必ず年をとります。年をとれば、視力が落ちる、耳が遠くなる、膝が痛む……等々、多かれ少なかれ障害を抱えた身体になるからです。

日本はこれから、どの国も経験したことのないような超高齢化社会に突入します。さまざまな障害を持った人が、さまざまな体を駆使してひとつの社会をつくりあげていく時代。つまり高齢化社会になるとは、身体多様化の時代を迎えるということでもあります。医療技術や工学技術の発展も、この多様化を加速する要因でしょう。そうになると、人と人が理解しあうために、相手の体のあり方を知ることが不可欠になってくるでしょう。異なる民族の人がコミュニケーションをとるのに、その背景にある文化や歴史を知る必要があるように、これからは、相手がどのような体を持っているのか想像できることが必要になってくるのです。

(伊藤亜紗著 『目の見えない人は世界をどう見ているのか』から)

- *1 没入・・・一つのこと集中すること。
- *2 成否・・・成功するかしないか。
- *3 全盲・・・両目の視力を失った状態のこと。
- *4 フォーム・・・スポーツなどの動きの姿勢のこと。
- *5 シミュレーション・・・実際の動きをまねて、同じように行うこと。
- *6 パス・・・走り高跳びで自分の順番を飛ばすこと。
- *7 偶発事・・・偶然に起こったできごと。
- *8 ネガティブ・・・否定的なさま。
- *9 超高齢化社会・・・総人口のうち、高齢者の割合が非常に高くなっている社会のこと。

1※

2※

3※

※

※

熟語	文
熟語	文

(1) 「想像」は「そうぞう」と読みますが、同じ読み方で別の漢字を使った熟語に「創造」があります。「このように、別の漢字を使いながら、同じ読み方をする熟語を二つ考え、それぞれの熟語を使って文を作りましょう。」感心」と「関心」のよつた、一字違いの熟語でもかまいません。ただし、「想像」「創造」「感心」「関心」を使ってはいけません。

受検 番号	
----------	--

課題3 太郎さんと花子さんは授業でごみ問題について先生と話をしました。

あとの(1),(2)に答えましょう。

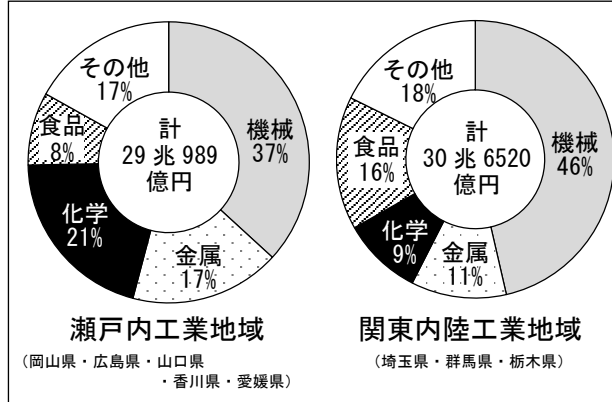
太郎：最近、プラスチックごみのことが問題になっていますね。

花子：プラスチックは軽くて丈夫だ

けど、自然に分解されないものもあるから困ると聞きました。プラスチックはどのように作られているのですか。

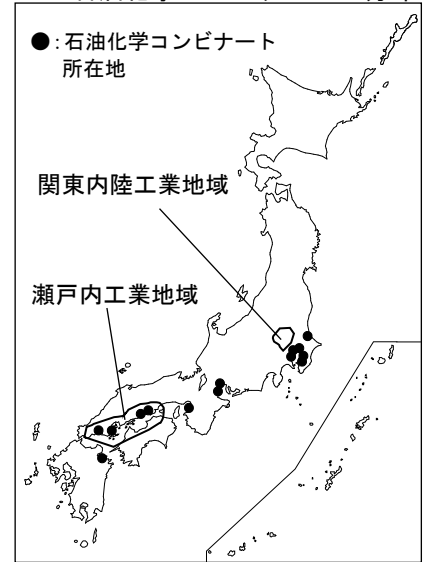
先生：プラスチックは石油を原料として石油化学コンビナートなどで作られています。

資料1 工業生産額のうちわけ(2016年)



(日本国勢図会 2019/20 から作成)

資料2 工業地域と石油化学コンビナートの分布



(日本国勢図会 2019/20 から作成)

(1) 資料1と資料2を関連させて、関東内陸工業地域とくらべた瀬戸内工業地域の特色を、解答らんの書き出しに続けて説明しましょう。

※

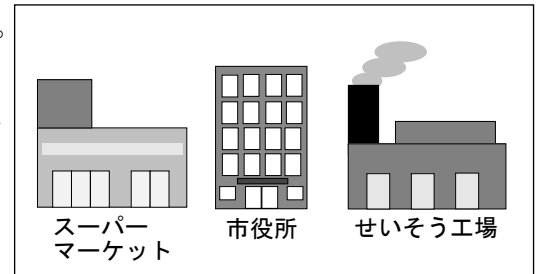
瀬戸内工業地域は

先生：では、プラスチックごみはどのように処理されているのでしょうか。

花子：リサイクルされていると思います。

先生：リサイクルとは「再資源化」のことですね。それではプラスチックのリサイクルはどのように行われているのか、調べてみましょう。

資料3 街にある施設



(2) プラスチックのリサイクルの取り組みについて調べるために、街に取材に出かけました。

ア 資料3のスーパーマーケットか市役所のどちらかを取材します。取材する施設を選んで、あなたが取材したいことを、その施設が行っている「リサイクルの取り組み」に関連づけて書きましょう。

イ 資料4は、せいそう工場に取材に行ったときにももらったパンフレットに書かれていたものです。資料の数量または割合に注目して、あなたが考える「リサイクルの課題」と、「なぜそのことを課題と考えたか」を具体的に説明しましょう。

資料4 日本のプラスチックの処理・処分の内容(2017年)

		万t	%
リサイクル	国内処理 *1	108	12
	輸出 *2	143	16
	エネルギー回収 *3	524	58
未利用	単純焼却 *4	76	8
	うめ立て	52	6
合計		903	100

(一般財団法人プラスチック循環利用協会「プラスチックリサイクルの基礎知識」, 財務省貿易統計から作成)

- *1 国内処理：国内の工場で再資源化の処理をする。
- *2 輸出：国外に輸出してリサイクルしてもらう。
- *3 エネルギー回収：燃やした熱を利用する。
- *4 単純焼却：熱などを利用することなく焼却する。

※

ア

※

イ